

未来対話 開会式

浜田外務大臣政務官 スピーチ

12月6日

本日は中東・アジア・アフリカのイスラム世界及び我が国から有識者、青年の皆様にご多数お集まりいただき、誠にありがとうございます。この度、第3回「未来対話」を開催できることを大変嬉しく思います。

2002年以来、10回以上にわたって開催してまいりました我が国とイスラム世界との対話は、今回の東京会合をもって最終回を迎えます。これまで、様々なテーマについて議論し、そして提言が行われてきました。

我々は、地理的にも文化的にも遠い世界のように感じられる日本とイスラム世界の相違点ではなく共通点に着目することで、両者の心理的距離を縮める架け橋のような役割を果たしてきました。また、回を重ねるにつれ、有識者のみならず、若者の交流のセッションやメディアセッションを含め、対話をより重層的なものにすることを心掛けてまいりました。さらに、世界規模の課題、例えば、気候変動や環境問題のトピックについても議論するなど、国際場裡で日イスラム世界が共に果たしうる役割についても議論いたしました。

この間、日本国内でイスラム世界の理解が進んだことを示す好例としては、日本国内のモスク数はこの10年間で24から57に倍増し、中東出身の日本の留学生の数もこの10年間で584人から1018人に増加したことが挙げられます。また、内閣府の世論調査によれば、我が国の中東世界に対する親近感が年々増しているという結果も出ており、イスラム世界に対する日本の理解が徐々に深まっています。

同様に、日本に対するイスラム世界の理解についても深化しています。私自身、先般、サウジアラビアから日本を訪れた青年代表団に会い、意見交換を行いました。彼らは、日本国内の様々な地を訪れ、その最先端の技術や伝統、文化に触れ、日本への理解が大きく深まったと感動の念を込めて述べておりました。

宗教や文化の異なる者同士が相互の立場を理解し尊重し合うためには、このような息の長い対話プロセスを経ることが必要なのです。第6回目の文明間対話以降、毎年続けられている若者の交流は、日イスラムの次世代を担う若者たちが忌憚なく意見交換を行う貴重な場であり、このような交流を今後も続けていくことで、さらに双方の距離が縮まると私は確信しております。

今回のセミナーでは、産業界の経験のセッションや青年交流のセッションが設けられております。未来対話は今回が最終回ではありますが、それは、日イスラム世界間の対話がこれで終了することを意味するわけではなく、発展的解消と捉え、今後も様々な形で交流を続けることが、日イスラム双方にとって、そして、国際社会全体にとっても必要なことです。本セミナーで未来対話を総括し、互いの価値観を尊重するとともに、今次セミナーを通して更なる知識の共有、そして我が国とイスラム世界の相互理解がより一層進展することを祈念します。

以上、簡単ながら、これから2日間に亘るセミナーの成功を祈念し、私の挨拶とさせていただきます。御静聴ありがとうございました。